



特攻隊ミュージカル 流れる雲よ Tokyo 2022 @大田公演

# スポンサー・ご協賛のお願い

2022年8月吉日  
『流れる雲よ』東京実行委員会  
実行委員長 鈴木豪一郎

# 未来へつなぐべく高い評価を得ています。

---

原作は、脚本家の奈美木映里によるラジオドラマ「飛行機雲」。

全国のFM局で放送され、第38回ギャラクシー賞奨励賞を受賞した作品です。  
その後もTBSラジオをはじめ、地方各局でもリメイク版が作られています。

舞台作品は、平成12年の初演から全国各地で公演されています。

劇団アトリエッジは東京の小劇団ですが、全国のボランティアの応援もあって、  
今年で22年目を迎えているのです。

この作品は懐古主義でも、声高に戦争犯罪を訴えるものではありません。  
大切なものを守るために命をかけた若者達の鮮やかな「生」の物語です。

戦後 77 年が過ぎました。

現在の日本は、何のために生きるのか、どう自分の命を使うべきか、  
迷っている人が多いのは、先進国一位の自殺大国であることにも表れています。

戦争で命を落とした若者達は、今の日本を望んでいたでしょうか?

『流れる雲よ』は、過去からのメッセージを未来へ繋いでいます。

# ストーリー

---

時は、昭和二十年、夏。

日本の戦況は日増しに悪化し、各地で一億玉碎が叫ばれる中で最後の抵抗戦が行われていた。

物語の舞台は、鹿児島の特攻基地。

主人公の坂本光太郎と幼馴染みの中原正人は、この地で七年ぶりの再会を果たす。光太郎は飛龍興武隊の特攻隊委員となり、正人は整備兵として光太郎の特攻機を担当することになった。

光太郎の所属する飛龍興武隊には、アメリカ人の母を持つ天野真一隊長をはじめ、個性的な面々が揃っていた。身重の妻を奄美に残してきた後藤隊長は豪快な大酒飲み。特攻するも、一人何度も帰還している竹山少尉。光太郎は、最後の時をそんな仲間たちと笑顔で過ごしていた。

ある日、光太郎が基地に持ち込んだラジオを正人と聞いていると、軍事ニュースに混ざって奇妙な放送が流れてくる。女性の声で「貿易センタービルにカミカゼが突っ込んだ」など、理解できない内容ばかりだ。そして、毎日同じ時刻に聴こえてくるこの放送が未来からの電波ではないかと気づく二人。更に、ラジオは昭和二十年八月十五日に日本が敗戦したと伝える・・・。

動搖する光太郎と正人。日本が負けるなら特攻隊委員たちは、一体何のために今、死を選ぶのか？特攻させたくない正人と、覚悟を決める光太郎。それぞれの思いが交錯するなか、ラジオの神様は、特攻前夜の光太郎に奇跡を見せるのだった。

過去と未来、死にゆく者と残された者。「平和な未来」を願って海にへ散った若者たちの物語。

# 『今 日本はいい国ですか?』

## その問い合わせなんと答えることが出来るか?

『流れる雲よ』は演劇という形で、過去からのメッセージを未来へ繋いでいこうとしています。ドラマチックな演出と分かりやすいストーリーで、老若男女問わず魂が揺さぶられるほど感動があります。

劇団アトリエッジは東京の小劇団ですが、

全国のボランティアの応援もあり、20年以上続けてきています。

大阪公演については、一昨年は朝日生命ホールで1,700名、昨年は大阪護国神社で400名と、全ての公演で満員御礼となるほど大盛況で、毎年たくさんの方々にご来場いただいています。



「流れる雲よ」東京@大田区実行委員会は、一般社団法人おおた助っ人と有志のボランティアで構成されており、コロナで観客動員数も厳しく制限されている中で悪戦苦闘しております。  
どうぞ皆様、東京でもこの作品を伝えて行く活動のお力添えを何卒宜しくお願ひ致します。

## 大田区「流れる雲よ」実行委員長 鈴木豪一郎より



2020年夏…時はコロナの大禍。ある方のお勧めにより、このミュージカル『流れる雲よ』に出会いました。大東亜戦争当時、明るく平和で安泰な日本の未来を思い、命を散らしてくださった当時17歳から20歳前後の若者達。彼等からのメッセージが、このミュージカル『流れる雲よ』と命がけの演者さんを通し、76年の時空を超えて衝撃と共に私の心と体に伝わってきました。

この作品は多くのかたに禍を乗り越える勇気と、次に向かうぞ！というとてつもない心のチカラを与えてくれます。大阪、名古屋、松本、果てはニューヨークまで演じられているこの作品。今年2021年夏、多くの仲間と賛同者のおかげで東京にも、この作品を誘致し、コロナ禍にも関わらず大盛況を得ました。2022年 **今年も開催します！**

# 舞台「流れる雲よ第一回 東京公演」公演情報

## <公演日程>

10月14日（金） 第一公演 18:30開場／19:00開演  
10月15日（土） 第二公演 11:30開場／12:00開演  
第三公演 15:30開場／16:00開演

場所：大田文化の森

主催：流れる雲よ東京実行委員会

## <出 演>

坂本光太郎（特攻隊員） : 藤嶋翔大  
中原正人（整備兵） : 上坂英俊  
天野真一（特攻隊員 隊長） : 市川大樹 (ARCHE)  
後藤広明（特攻隊員 隊長） : 田中寅雄  
竹山直彦（特攻隊員） : 伊藤貴史  
山口涼太（整備兵） : 福井将真  
竹山なみ（竹山の母） : つちやかおり

## <スタッフ>

脚本 : 奈美木映里 (=草部文子)  
演出 : 田中寅雄  
音響 : 宮崎裕之 (predawn)  
照明 : 望月太介 (株式会社アートステージライティンググループ)  
題字（書） : 柏木白光  
舞台制作 : 株式会社サンディ  
製作著作 : 演劇集団アトリエッジ



# 劇作家 草部 文子 / (=奈美木 映里) より

時の長さは、使い方によって長くも短くなる・・・。時間の長さは「それぞれの生き方でコントロール出来るもの」私はそんな風に思っています。この作品を始めて今に至る22年は、私には、気の遠くなる様な長さだったようにも感じ、まだ22年しか経っていないのか・・・とさえ思います。でも、ここまで22年の道のり、急な上り坂でしたが、息を切らせながらも、絶景を眺めながらの歩みであった事は確かです。

私にとって『流れる雲よ』と共に、若者達と汗をかき、涙し、日本に向き合い、祖国を愛してきた二十二年は「これこそが覚醒した真の人生である！」と断言出来ます。この作品を書く前の自分の人生がなんと<虚ろ>であったか。二十歳そこそで命をかけて国を護った若者達。果たして特攻隊員達の人生は、悲しみに塗り固められたただの短い生涯だったでしょうか？ 私には、そうは思えません。そこには現代人には計り知れない『崇高な永遠の命の輝き』を感じ、その二十年あまりの生涯は、時空を越え<永遠の道標>となっているように思えます。生きる事に必死であった時代の『時』は、今よりもっと濃くて、それでいてもっと透明で、もっと麗しいものだったのではないでしょか。

## <草部文子/ (=奈美木映里) プロフィール

国立大学国文学教授の父と純文学作家の母の長女として生まれる。

学生時代より青年俳優座で演劇を学び、同時に糸居五郎氏の門下生のフリーのラジオDJとして、全国AM局で活躍。

NHK銀河テレビ小説『新宿物語』（1985）、漫画『3D-BOYS』（1996）のモデルとなる。

ラジオDJを引退後、（株）サンディの代表として会社経営をする傍ら、2000年よりラジオドラマや舞台の脚本・プロデュースを手掛ける。

「飛行機雲～未来より愛を込めて～」（ギャラクシー賞奨励賞・脚本）

「ぞめきの消えた夏」（民放連賞優秀賞・脚本）

「Peace in a Bottle」（ギャラクシー賞佳作・脚本）

「風の砦」（第23回国民文化祭演劇・制作プロデュース）

「ちはやぶる神の国」（俳優座劇場・脚本）

「流れる雲よ～KAMIKAZE」（演劇シネマ・シナリオ）

「ぬばたまの淵」（俳優座劇場・脚本）

「えにしの記憶1～7」（TOKYO-MX TVドラマ シナリオ 他）



祖父：陸軍参謀本部 大久保俊次郎大佐（陸士24期）

大伯父：横須賀鎮守府司令長官 戸塚道太郎中将（海兵38期）

叔父：重巡洋艦羽黒航海長 太田一道中佐（海兵59期 / 戦死）

# 舞台「流れる雲よ東京公演」スポンサー・協賛申込書

【FAXにて、お申込みお願い致します】 → 申込FAX番号：03-6410-3631 鈴木宛て

申込日	2021年 月 日	実行委員担当者名：
会社名	ふりがな 印鑑	
代表者名	役職名	氏名
本社所在地	〒	
TEL	FAX	
ご担当者様連絡住所	〒	
ご担当者様	部署	役職名 氏名
TELor携帯	メールアドレス	
お申込	( ) ゴールド：10,000円・・・①	
	( ) プラチナ：30,000円・・・①と②	
	( ) ダイヤモンド：50,000円・・・①と②と③	
	①FBページとホームページにお名前とURLを記載 ②販売促進チラシを来場者に配布 ③壇上でお名前を読み上げ献花して頂く	

【ご協賛金お振込口座】湘南信用金庫 本門寺前支店 店番066 普通 6046401 シヤ) オオタスケット

※パンフレットへ掲載を希望される場合は、9月15日までにお申し込みください。

一般社団法人おおた助っ人「流れる雲よ」東京実行委員会 実行委員長 鈴木豪一郎  
住所：東京都大田区池上3-39-12 メールアドレス： g.Suzuki@tokiwa-r.co.jp

